



# 私たちの 町議会びらとり



▲ポロシリの冬

ここが聞きたい一般質問 .....P2

委員会報告～質疑応答～ .....P4

行政報告 .....P8

審議した議案  
第7～8回臨時会・第9回定例会 .....P9

あの人に聞く .....P12

**VOL. 114**

**2023.2.10**

# ここが聞きたい一般質問

12月の定例議会では、3名の議員から4件の一般質問がありました。

## 松澤 以久子議員

### 带状疱疹予防ワクチン接種の補助は

**問** 带状疱疹は皮膚症状と激しい痛みで夜も眠れないほどの病気で、

国保病院では5月の病院だよりに2種類の带状疱疹ワクチン接種を50歳以上の方に案内していますが、接種が高額なため躊躇していると聞いています。ワクチン料金とその設定基準、周知以降のワクチン接種の実績についてお聞きします。また、ワクチン接種に補助する考えはあるか伺います。

**答** (病院事務長)

病院の使用料及び手数料条例において、予防接種料は薬剤の実費に手技料を加えた額としています。水痘ワクチンは9500円です。シングリックスワクチンは2万5000円を2回接種しますので合計5万円となります。

**答** (保健福祉課長)

このワクチンは、国が使用を認めています。国が使用を認めていることから、接種費用は全額自己負担です。そのため費用の一部を助成している自治体もありますので、今後の接種状況も見ながら助成について検討したいと考えています。接種実績は水痘が16名、シングリックスは9名です。



### 委託に頼らない

### 組織づくりを

**問** 現在、庁内にまちづくりのプロジェクト会議がありますが、その内容、役割について伺います。また、

先般の産業厚生常任委員会、臨時会で「ふるさと納税等アドバイザー業務委託料」が提案可決されましたが、平取町の魅力を発信する返礼品

の開発などを委託するのではなく、

プロジェクト会議のような方式でグループやチームをつくり、検討することができないか伺います。

**答** (まちづくり課長)

まちづくりプロジェクトチーム会議は、副町長をリーダーにまちづくり課長の他8課長で構成し、令和3年度は5回開催で、検討した課題は「道の駅」整備検討業務等16件、令和4年度は現在まで3回開催し、公営住宅長寿命化修繕計画等12件について協議しています。

**答** (副町長)

今回の「ふるさと納税等アドバイザー業務」は、課長職に限らず関係職員も含めて意見交換ができる場にしていきます。今回、総合計画を検討するなかで業務をグループやチームで行うことの課題が見えてきました。中堅職員によるプロジェクト参加も必要と考えています。

**問** 職員は各課を異動することで

現在の業務以外の知識も有し、職員

間の情報共有もできます。他の自治体では、係制からグループ制へと移行することで意思決定の迅速化、業務の調整等で仕事の効率を上げています。そのような体制づくりはできないか伺います。

**答** (町長)

今年度の職員研修の取組みとして、職員それぞれが携わっている業務の見直し作業を進めています。これは担当している仕事に漫然と臨むのではなく、業務の位置づけを明確にして、仕事の成果を上げることが目的にしています。職員が町民の期待にこたえる仕事をするためのシステムの構築が必要です。プロジェクトチームがなければ横断的な議論が生まれにくいことではなく、自分の課でまとまらない場合は、すぐに連携し、対応する意識が大事だと考えています。現在、全職員が情報共有できる体制がすでにできていますので、より効率的な組織づくりを行います。

## 櫻井 幹也 議員

### 遅きに失する

**問** 令和4年度の町政執行方針で

町長は「平取養護学校高等部の卒業生などを含む障害のある方が可能な限り地域での自立を目指すことができよう（中略）農福連携をはじめとする雇用の場を拡充していくために（中略）適切な支援を図ってまいります。」と述べていますが、今日に至るまで何の政策も提示されていません。

令和2年9月の一般質問でも伺ったが、農福連携に関する協議の中心であるとされた障がい者支援協議会の役割とは何か、また、何をいつまでになすべきか、確実に遂行できるチーム、組織を作るべきと考えますがいかがが。

**答**（町民課長）

協議会としては、農福連携に加え、多様な就労の場の確保と体制づくりを協議していくため、新たに地域就労部会を設け、具体的な検討を図っていきます。すでに福祉社会とは、経

営上の試算やその他の課題も協議しています。細部に関しては地域就労部会で積み上げ、最終的には協議会に委ねる形にしたいと考えています。

**問** 基本的には農福連携による就

労を進めていきたいと考えていますが、そこに固執する余り、就労の道がいつまでたっても開かれないことを危惧しています。

学校側からは、就労支援A・Bにこだわらない様々な運営の方法を探って欲しいという希望も出されています。

また、前回の答弁にあった今金町で行われている、町が一時障がい者を職員として雇用する農福連携事業の導入についてはどうお考えか。

**答**（町民課長）

就労支援A型は管内でも少なく、事業所として運営が難しいと聞いています。また、養護学校のワークコースには、一般就労も可能な生徒も在学していますので、企業とのマッチングに向けた双方への情報提供が非常に重要です。その方法について学校側と検討していきます。

**答**（町長）

一般就労については、生徒が対応できるのであれば、企業の受皿づくりが非常に重要になってきます。今金町の例については、行政として法的にも障がい者の受入れは必要であり、制度化も含めて検討したいと思っています。

**問** 障がい者の就労には学校も保

護者も大変苦労しています。苦小牧に特別支援学校が設立されて以来、平取養護学校の小学部の入学者は減っていますが、逆に高等部は増えている状況です。学校も就労を視野にコース制を取り入れていますが、

最近では苦小牧や近隣の事業所が農園を開設した事が大きく報じられ、今後、苦小牧の支援学校への入学が就労に有利であるかのような話が徐々に浸透していかないと限らない。この政策をいつまでも先送りしては、遅きに失すると思うが、町長の考えを伺います。

**答**（町長）

当町は一次産業の町で、農福連携についてはその可能性も非常に大きいと考えています。障がい者就労に

関しても山積した課題を一つ一つ整理し、年度内には内部で改めて検討し、スピード感を持って対応します。

※就労継続支援A型・B型とは

就労継続支援A型は雇用契約を結ぶため、最低賃金が保障されますが、勤務時間や日数に条件があるため、ある程度安定して就労できないと利用が難しくなります。就労継続支援B型は雇用契約を結ばないため、自分の体調に合わせて就労をすることができず、A型に比べて賃金が低く設定される場合が多いです。

## 四戸 正彦 議員

### 老人福祉施設への対応は

**問** 現在、かつら園は入所が満床と聞いていますが、町内の各施設の待機者数を伺います。

**答**（保健福祉課長）

各施設の待機者は、かつら園で申込者が22名、こころのホームふれないは20名、ケアハウスすずかは13名のうち入居希望者が3名、生活支援ハウスきずなは待機者はゼロで募集中です。現在の認定者数、要支援1から要介護5の方が326名です。

**問** 平成8年から運用されている

かつら園のデイサービスですが、平取福祉会は、コロナ禍の中、十分な対策を取り、職員も大変な思いでサービスに当たっています。しかし、この施設は狭く、廊下も施設として使用しています。もっとゆとりのある施設に改修すべきと考えますがいかがか。

**答** (保健福祉課長)

施設内のスペースが狭いとのこと指摘ですが、現在、感染症対策で土曜日の運営を休止していますが、その利用を再開させて、平日の利用者数を平均化することでスペースが確保できると考えていて、現在、平取福祉会に土曜日の再開について検討をお願いしています。

10月に機械室内の給湯配管取替え工事を行いました。今後の改修も配管工事など、こちらを優先したいと考えています。

**問** 町内の施設に申し込んでも入

所出来ない方など、今後増える待機者の入所に関する対策、また、福祉施設等の改修に係る支援についてどのように考えているのか伺います。

**答** (町長)

現在、かつら園の待機者が多く、病院やほかの施設の状況等も鑑みながら、今後の対策を検討していきま。老人介護福祉施設の改修等については、今までの経緯も含めて高齢者介護福祉への重要度から、町としても予算を含め2025年問題等により変更せざるを得ない状況になると思います。今ある施設の耐用年数等も鑑みながら、それぞれの施設の改修は平取福祉会等と相談し、町の財政状況等に応じ、その都度十分な協議の上、常に支援をしていくことを基本に考えていきます。

※「2025年問題」とは、西暦2025年以降、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、我が国が超高齢化社会になること。医療や介護に必要な社会保障費の増大も深刻な問題になり、自治体の財政を相当圧迫することが予想されます。

### 総務文教常任委員会

11月21日開催

◆各小中学校の学校経営状況について

11月1日・2日に学校訪問を行い、各校長から学校の教育目標や取り組み、児童生徒の状況の説明がありました。今年度は、教育研究推進事業の公開授業で貴気別小学校1・2年生の複式授業と平取中学校2年生の社会科学授業を参観しました。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された学力調査の結果は、全国・北海道と比較すると全体的に低く、日高管内の比較では高い状況です。子ども達の学習状況は学校だけが担うだけでなく、家庭における学習時間なども重要です。今後も学力向上の取組みを進めていきます。(教育長)

Q 小学校、中学校においても国語の読む力が低い。読む力の大切さを

を再認識し、改善に向けた学習に力を傾注して欲しい。(櫻井)

A 読むことは、すべてにおいて非常に重要です。読む力が低いと問題を解くうえで、何を聞いているのか理解できないこととなります。これから本を読む習慣を学校ばかりでなく、家庭においても積極的に進めていきたい。

◆ゼロカーボンの表明について

環境省が推進する2050年までに二酸化炭素排出量ゼロの取組みを公表した地方自治体をゼロカーボンシティとしています。脱炭素社会への取組みを町民、事業者、町が一体となって、進めていくことで、地域課題の解決と活性化を図り、町の持続的な発展につなげることを目的としたゼロカーボンシティの宣言を行います。(まちづくり課)

Q ゼロカーボンシティの実現に向けた取組みの中で、化石燃料の使用に関しては、各種事業推進の中で不合理な場面も出てくると思われる。

今後の実行計画の中で整合性などを提示出来るのか。(櫻井)



**A** 事業の推進では、様々な問題点も想定されますが、そういった問題もソフトウェアを念頭に対応していきます。

**産業厚生常任委員会**

11月22日開催

◆各へき地保育所の今後について

紫雲古津保育所は10月6日、荷葉保育所は10月7日にそれぞれ3回目の説明会を開催し、町長から町の考え方について説明しました。荷葉保育所では、保護者から閉所までに思い出となるイベントやセミナーの開催予算をつけてほしいという要望があり、保護者説明会は終了しました。  
(保健福祉課)

◆院内クラスターの発生について

11月5日、職員11名、入院患者7名の新型コロナウイルスの感染を確認し、静内保健所による病棟立入検査が実施されました。11月8日に現状の確認、外来の再開について協議し、終了後に2回目の立入検査を実施

施しました。外来診療は、11月14日から再開し、入院が必要な患者は、門別国保病院への受入れを要請しています。  
(国保病院)

◆令和4年度の上半期国保病院経営状況について

年度別上半期(4月から9月)診療収益状況(円)

	国民健康保険病院			振内診療所		
	区分	患者数	診療収入	区分	患者数	診療収入
令和3年	入院	3,871	63,791,086	外来	972	4,645,062
	外来	9,056	58,647,961	訪問	359	2,278,700
	合計	12,927	122,439,047	合計	1,331	6,923,762
令和4年	入院	3,065	54,727,310	外来	914	4,547,477
	外来	9,371	56,755,649	訪問	380	2,324,660
	合計	12,436	111,482,959	合計	1,294	6,872,137

◆国保病院地域連携室に勤務する職員採用について

11月1日付けで社会福祉士及び介護支援専門員の資格を有する者を採用し、医療機関の受診や転院調整、退院後の生活や療養等の相談、介護事業所との連絡調整など、さらに連携の役割を進めていきます。  
(国保病院)

Q 訪問診療についての考えは。

(金谷)

**A** 現在、保健福祉課で訪問診療等に対するアンケートを実施していますが、病院としても地域に向くなど訪問診療等の計画について考えていきます。

◆令和5年度国民健康保険税の税率改正について

令和12年度に保険税の全道統一化が北海道の方針として示されていることから、被保険者の保険税負担の激減緩和を図るため、定期的な見直しを行います。  
(町民課)

Q 今ある基金は、これまで保険税を払ってきた人達が残してきたお金という捉え方が普通だと思う。

よって必要に応じ、今の加入者に適用されても構わないのではないかと。

(鈴木)

**A** 令和12年度で保険税率が統一される事を見通し、道の標準割合に極力近づける努力をすることが求められています。今の社会情勢においては、少しでも社会保険料を安くしたいという考え方は分かりますが、理解をいただきながら進めていかざるを得ない状況です。

◆平取町飼料価格高騰緊急支援事業  
支援金・肥育牛豚枝肉出荷緊急支援金交付要綱の制定、水稲生産者緊急経営安定対策事業について

原油価格、穀物価格の上昇等により、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、乳用牛については1頭当たり国の差額分2800円以内、肉用牛・軽種馬・農用馬は1頭当たり4000円以内、肥育牛については1頭当たり1万円以内、肥育豚は1000円以内、また、令和4年度に平取農協に出荷した主食用米・酒米・加工用米の等級品に対し1俵当たり100円を交付します。  
(産業課)

◆就農チャレンジ農場の多様化について

町が整備する就農チャレンジ農場は、単身型就農研修農場を基本としています。夫婦型の実践農場の延長版として第三者継承先が見つかるまで使用するなど、単身者用研修農場として機能維持を図りながら、弾力的に管理運営を図ります。将来的には障がい者就労を受入れるために農福連携農場としても検討していく予定です。

(産業課)



△チャレンジ農場予定地

◆ふるさと納税等アドバイザー業務について

この業務は、寄附の動向に関する調査や分析、また外部への情報発信に関する調査、返礼品に関する状況調査や業務の組立て、契約している3社のサイトの現状調査など全国的な傾向分析などを行って、観光戦略の一環としてのふるさと納税のアップを目指すものです。

(観光商工課)

議員全員協議会

11月29日開催

第6次平取町総合計画事業実施計画（令和5～7年度）のローリング及び関連する財政計画について説明がありました。

**Q** 市街地整備に関するグラウンドデザインの検討は、令和3年度で終了している。地域の役割もテーマを決めて、平取町全体はどういうテーマでカバーしていくのか、将来的な展望が持てるようなまちづくりに取り組むべきではないのか。（木村）

**A** グラウンドデザインについては、令和3年度で一応の成果品となりましたが、核となる役場本庁舎建設も流動的であり、今後必要な対応をしながら示していきたいと思えます。また、地区ごとの役割についても状況を把握しながら検討していきます。

**Q** 平取高校魅力化プロジェクトの事業説明では、カリキュラムの変更や寮の整備、その他の高校の魅力化を図るとあるが、寮の整備は平取町がやるべきことなのか。（中川）

**A** 本来は道立なので道ですが、自治体がどれだけ高校存続に懸命に取り組んでいるかが評価されます。生徒数の確保で道内外から生徒を受け入れることになると、住環境などある程度自治体で受入れ態勢を整っているので実施したいということとを道教委と協議しなければならず、町としても検討が必要になります。

**Q** 平取町ゼロカーボン実行計画

策定事業の委託は、具体的な施策を明確化させるための作業で、膨大な多岐にわたる細部までの計画を平取町に関わっていないコンサルタントが1年くらいで策定できるのか。（櫻井）

**A** 基本的には、実行計画と区域施策編を作りますが、平取町全体でカーボンオフセットがどのくらい行われるかなど全部数値化しなければならず、その作業は職員だけでは難しい部分があるため、ベースになる実行計画をコンサルタントに委託しながら、環境省から補助もあることから年度内の策定を進めていきます。

**Q** 二風谷地区のコタン整備でチセ群があるが、火災が発生した場合、消火が非常に難しい。消火設備をどのように整備していくのか。（木村）

**A** 以前からチセの延焼についてご指摘があり、消火栓など条件の合わないところもあります。文化財保護の視点からどういふことができるのか早急に検討を進めます。

## 決算審査

### 特別委員会報告

#### 【国保病院特別会計】

新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大・まん延により、診療体制の見直しや医療従事者の確保など、自治体病院を取り巻く環境は依然として厳しい。国保病院においても、人口減少に伴う患者数の減少が顕著であり、医業収益は伸びず、一般会計からの繰入れが常態化している。このことは、町財政全般を圧迫する要因となることが想定される。令和3年度決算では、一人当たりの診療収入が入院・外来ともに増となったことは評価できるが、令和4年度から病院改革に係る企業債の償還が始まり、さらに繰入れを1億円追加する収支状況を踏まえ、病院機能を効率的に活かし、収益が確保できるような健全経営に向けた改善を早期に図りたい。町民の生命と健康を守ることは、自治体病院としての使命で

あり、高齢者人口の割合が上昇を続けている町の現状においては、国保病院の果たす役割は極めて重要になる。

今後も地域に必要な医療サービス  
の維持、広域的な診療体制の推進など  
と安心な医療環境の整備、安全な医療  
提供に努められるよう強く望む。

令和3年度国保病院決算状況（収益的収支）

収入	医業収益	3億1804万円	支出	医業費用	7億8700万円
	医業外収益	4億7426万円		医業外費用	830万円
	特別利益			特別損失	49万
	合計	7億9230万円		合計	7億9579万円
			当期純利益	▲301万円	

#### 【一般会計及び各特別会計】 《一般会計》

決算状況は概ね良好である。特に基金繰入金は、補正予算や令和2年度からの繰越予算を含めた予算総額4億1550万円を計上していたところ、地方交付税の増額などにより、決算額が2000万円となったことは評価できる。令和3年度決算では、健全化判断比率は実質公債費比率が5.5%、将来負担比率が45%と算定され、経常収支比率は82%と前年度比0.4%減となったが、依然として高い数値であり、極めて低い財政力指数、財政構造の弾力性において注視が必要な数値である。

地方財政が複雑化する傾向にあるなか、将来にわたる継続的な各種財政指標の分析は必須であり、適切な予算管理と適正な執行により、なお一層の健全化を努められたい。

厳しい財政状況のなか、求められる地域住民サービスは多種多様化し、第6次総合計画においても継続的に様々な事業が予定されている。

今後の事業展開において、限られた財源で計画的に実施していくためには、多大な努力が必要である。事業の必要性、優先性を再度検証するとともに、新規事業では実効性、採算性を重視し、経済的で効果的な事業実施による持続可能な財政基盤の確立を図るよう、確かな行財政運営を強く望む。

人口減少が顕著となり、まちづくりへの影響が懸念されるが、多様な行政施策を確実に展開し、事業実績と相応の成果が達成されるよう、協働のまちづくりのもと、地域振興と住民の福祉向上のためさらなる努力を傾注されたい。

#### 《特別会計》

国民健康保険・後期高齢者医療保険・介護保険においては、保険料の収納率も含め概ね良好な事業運営であるが、高齢化が加速する現状を踏まえ、高齢者の保健事業、生活支援の充実が図られるよう安定的な運営を進められたい。

### 令和3年度各会計決算状況

会計別		歳入決算額	歳出決算額	翌年度繰越額
一般会計		72億5185万円	71億1401万円	1億3784万円
特別会計	国民健康保険	7億515万円	6億9311万円	1203万円
	後期高齢者医療	9000万円	9000万円	-
	介護保険	5億2839万円	4億9529万円	3310万円
	簡易水道事業	2億9689万円	2億9628万円	62万円

また、簡易水道特別会計では、前年度に比べ改善は見られるが、多額の未収額があることから、公平な負担と安定的な施設の維持管理を図るためにも、連携した徴収対策に努められたい。

## 行政報告

#### ◆要望経過報告について

9月28日から29日、平取ダム本体工事の完了報告と今後の沙流川流域の安全推進に向け、平取ダム建設促進期成会として国土交通省ほか関係機関に要望しました。10月12日、道平取静内線の整備に係る貫気別橋架け替えの早期整備を胆振総合振興局と室蘭開発建設部に、10月14日、自由民主党北海道第9選挙区支部移動政調会で、国道237号線歩道等の整備、公立高等学校配置計画における地域連携特別校の再編整備の留保ほか7件について要望しました。

日高町村会、日高総合開発期成会、高規格道路日高自動車道早期建設促進期成会で、11月16日に災害発生時の代替道路、また救急搬送の生命の道である日高道の早期整備を国土交通大臣はじめ道内選出国会議員に強く要望しました。

## 教育行政報告

#### ◆町内小中学校の状況について

学校活動については、感染防止対策の徹底を図りながら各行事を実施してきました。9月16日に振内中学校文化祭、23日には平取中学校学校祭、また10月15日・16日に各小学校で学習発表会が行われました。

10月5日には、町内の中学校英語暗唱大会が実施され、最優秀賞及び優秀賞の生徒が新ひだか町で行われた管内大会に出場しました。平取中学校の生徒が最優秀賞を受賞し、全道大会へと進みました。

10月19～21日まで平取中学校の修学旅行が函館、岩手方面で、また、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した町内小学校合同による修学旅行は、10月26～27日に札幌、小樽方面で実施されました。

11月1日・2日に町議会総務文教常任委員会、11月22日・24日には教育委員による町内7校の学校訪問が

実施され、校長、教頭から学校の現況説明、意見交換等学校運営について評価してきました。

#### ◆令和4年度全国学力学習状況調査の結果について

小学校6年生と中学校3年生を対象に4月19日、全国一斉に実施され、今年度は国語、算数・数学に加え、4年ぶりに理科が実施されました。

平取町の状況は、小学校国語・算数では、全国・全道平均を下回りましたが、管内との比較では国語+4.8、算数+2.9となりました。領域別で見ると、国語では「読むこと」、算数では「図形」「変化と関係」で全国・全道を下回る結果です。

中学校国語では、全国・全道平均を上回り、管内でも+6.7となりましたが、領域別では、「読むこと」が全国・全道を下回りました。数学では、全国・全道を下回り、管内では+5.1でした。

理科においては、小学校・中学校ともに「生命」を柱とする領域で全



国・全道を下回る結果となりました。今回の結果をもとに、小学校の早い段階での学習の習慣化や読書などによる理解力の向上、基礎学力の定着とその活用などをあげていくなど、学力向上策について、今後さらに推進していきます。

学力調査の目的は、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証、学校における学習指導の充実や改善、教育に関する継続的な改善の確立にあり、現在の結果公表後の取り上げ方が、本来の趣旨目的から少しずれているのではないかと感じています。今回の結果を参考にし、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につながる指導に役立てることに重要です。今後も学校、家庭、地域と連携した学力向上に向けた取り組みの充実と推進にご理解をお願いします。

◆令和5年度新入学児童に係る就学時健診等の実施について

10月19日、令和5年4月に町内小学校に入学を予定している児童の健康診断、発達状況検査を実施しました。令和5年度は、紫雲古津小学校4名、平取小学校14名、二風谷小学校はゼロ、貫気別小学校3名、振内小学校5名で、現在26名が入学予定です。児童一人一人の様子を確認した中で、必要な教育支援や環境等を整えていきます。



▼一般会計補正予算（第6号）

冬の生活支援事業、平取町地域応援券事業、かつら園給湯配管更新事業補助金等

7472万2000円を追加



▼条例の一部改正

職員の給与に関する条例の一部を改正

▼平取町過疎地域持続的発展市町村計画の変更について

事業の項目の追加や事業量の増減に伴う計画内容の変更

▼一般会計補正予算（第7号）

電気・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金、社会福祉施設等物価上昇軽減補助金、感染予防対策事業補助金等

5085万1000円を追加



▼条例の制定

平取町イオル文化交流センター設置条例

平取町個人情報保護法施行条例

▼条例の一部改正

平取町議会議員及び平取町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例

特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例

平取町職員の定年等に関する条例  
ほか関連条例9件

平取町墓地条例

▼一般会計補正予算（第8号）

水稲生産者緊急経営安定対策事業補助金、飼料価格高騰緊急対策事業補助金、現年発生補助災害復旧工事等

9865万3000円を追加

▼特別会計補正予算

○簡易水道特別会計補正予算（第1号）  
施設光熱水費等

255万8000円を追加

○国民健康保険病院特別会計補正予算（第1号）  
施設光熱水費等200万円を追加

▼議員発議

平取町議会議員会条例の一部を改正  
次期改選時からの議員定数削減による常設委員会の委員数の改正



# 改善を求める請願」 反対3で採択!!

付帯意見「令和4年請願第1号は、願意及び趣旨は妥当であると認めます。透析室開設はこれまで指摘されてきた病院経営の改善に大きく関わるものであり、実効性、実証性の高い改善策となり得るよう、今後の平取町の医療の在り方を検証し、慎重なる経営分析のもと町民に必要な医療環境、持続可能な医療体制の整備を進められたい。

## 反対討論 四戸 議員

国保病院は改築をしてまだ3年、現在も一般会計から毎年3億5000万円余り繰入れしている状況です。国からの交付税を差し引いても、この3年間で約6億円がすぎ込まれた計算になります。加えて令和4年度から改築の償還が始まり、現在の町の財政状況から鑑みても、さらなる多額の費用を投じて透析室を新設することは無謀といえます。また、医療スタッフの確保等も含め、課題は山積しています。有識者、町民等を含めたプロジェクトを立ち上げ、十分に検討していく必要があると思うので反対です。

## 反対討論 櫻井 議員

反対する理由は、まず財政的な問題です。決算審査特別委員会の審査意見では「経常的な経費の縮減、必要不可欠な予算で適正な執行が図られるよう厳しい財政状況を自覚し、努力された」と議員全員が町に、町職員に指摘しました。また、総合計画における令和7年度の公債費は約9億円、基

## 反対討論 高山 議員

金残高は約8億7000万円、借金が増え、貯金を上回ります。加えて、病院特別会計は、毎年交付税算入額を差し引き約2億円が一般会計から繰り出され、さらに令和4年度から12年度まで1億3000万円から1億8000万円以上の企業債を償還しなければなりません。さらには透析室の開設により、多額の初期投資のほか毎年約5000万円の赤字が発生することが試算されました。将来にわたり患者数や医師、看護師、臨床工学士などの医療スタッフの確保も懸念されます。

また、請願の採択基準の中に「実現性のある緊急性のあるものに限る」とあり、病院特別会計については、長年にわたって一般会計から繰入れされ、しかも透析室の開設がされた場合、経営をさらに圧迫することは明白で、経営の改善がすぐには望めないことは実現性、緊急性の意味合いからも程遠いものです。本来こうした採択はすべきではない。以上のことから、この採択には反対します。

## 反対討論 高山 議員

今回の町民の請願に対して、なぜ今なのかということをやはり問わなければならぬ。過去には透析室の開設をめぐる議論も議会であり、財政的な理由も踏まえ新しい病院を建てた経緯がある。その時と現在と病院の経営状況を含め何が大きく変化して透析をやれる環境と判断したのか理解できない。また、新築したばかりの病院の病室4室を潰して新たに透析室をつくる場合、補助金適正化法に抵触するため財源の確保ができないのではないかと危惧する。

また、日高管内は、当初から東部は浦河、中部は静内、西部は門別ということで、人口単位で医療の適正な配置をしたのではないか。現在、病院の状況は、全く出来ないとか、札幌に行かなければならないという様な切羽詰まった状況ではない。経営の内容から総合的に物事を判断しなければならぬ議員の責任、責務から私は反対します。

# 「平取町国保病院における透析室開設採決結果……賛成7、

請願の審査結果は、付託された産業厚生常任委員会から「採択」の委員長報告がありました。

## 賛成討論 木村 議員

門別国保病院では、これ以上透析用のベッドを増やす予定はないという話でした。病院の経営は、この透析室を新たに作ることによって、さらに悪化するものではないと思います。病院改革プランなどを見直した上で、今の平取町の医療体制が本当にこれでいいのか、今大変な思いをしている町民を見捨ててもいいのかを考えなければならぬと思います。今まで病院改革をおさなりにしてきた町や議会に責任があるのであって、それを患者や町民に押しつけるのは間違っていると思い、私は賛成します。

## 賛成討論 松澤 議員

附帯意見については、町村議会議決規則の中に、「委員会が必要があると認めるときは、請願の審査結果に意見をつけることができる」とあるので、病院経営を含めて検証するということが付け加え、採択に賛成します。

## 賛成討論 井澤 議員

日高町の町民が門別国保病院に透析を希望しても入れず、苦小牧に通っているという状況の中で、現在平取町の透析患者15、16名が通院しています。前町長が、新国保病院を42床、透析はしないということとで建設しましたが、これはボタンのかけ違いだったと思います。今回、患者やその家族が署名をもって議会へ願い出たことにより、かりと耳を傾けなければいけない。本当に困っている町民の福祉の向上を図ることができるのは今が最大のチャンスではないかと思えますので賛成します。

## 採決結果 採択

○賛成7 木村・中川・井澤  
金谷・萱野・鈴木  
松澤

●反対3 櫻井・四戸・高山

## ◆住民懇談会の開催

12月2日 振内町民センター

「振内中学校統合を考える有志の会」の皆さんほか10名

振内中学校の統合に対して、保護者、住民の考えを理解していただき、今後の議論を進めてほしいと申し出があり開催しました。

懇談のなかでは、教育委員会が実施した保護者への説明、保護者アンケート及び地域説明会等について、経過や具体的な説明がない、判断する情報が足りないなど、今後も教育委員会からの丁寧な説明を求める声が多数ありました。懇談の内容や要望、今後の対応への配慮など、翌12月5日に町長、教育長に説明しました。

また、議会広報の掲載記事について疑義があり、広報の作成過程について説明し、理解をいただきました。



# あの人に聞く

～1月8日、平取町二十歳を祝う会に出席された方たちに聞きました～

- ①20歳を迎えた今のお気持ちはいかがですか。②将来の夢や目標などを教えてください。  
③町や議会に何を望みますか。④どなたかに一言お願いします。(家族、友人、恩師など)



ひらむら かな  
平村 花菜 さん

- ①20歳の節目を迎え、喜びとともに不安を感じています。これからは大人であることの自覚をし、自分の行動に責任を持って日々過ごしていきたいと思っています。また、コロナ禍の中、成人式を開催して下さったことに感謝しています。
- ②将来は教職に就きたいと考えています。これからの時代をつないでいく子どもを育む教員になれるよう学び続けていきます。
- ③平取町は食や自然・文化など様々な魅力があります。それらを発信することで、たくさんの世代の人々が笑顔あふれる町になればいいなと思います。
- ④私を支え、見守ってくれた家族、親戚、友人、先生方に感謝しています。こうして無事20歳を迎えられたのは皆さんのお陰です。まだまだ未熟な私ですが、少しでも恩返しできるよう頑張ります。



わだ まさき  
和田 理喜 さん

- ①まだ自分が成人という事に実感が無いです。ですが、これからは大人の仲間入りということで今まで以上に気を引き締めていきたいと思っています。
- ②将来は北海道に戻ってきて臨床検査技師として病院に勤め、少しでも多くの人への助けになりたいと考えています。
- ③若者の働き口の選択肢が多くあれば平取はもっと活気づくと思います。
- ④両親へ  
今まで迷惑や心配を沢山かけてきましたが、それでも自分を見離さずに見守ってくれてありがとうございます。こんな自分ですが、これからも支えてもらえると嬉しいです。

- ①姉の成人式を見て、振袖を着てお友達に会えることをとても楽しみにしていました。これからは、大人としての自覚を持ちつつ、社会人として責任を持って行動したいと思います。
- ②4月から札幌の幼稚園に勤めるので、子どもたちの意欲に繋がるような言葉掛けや、興味関心を持てるような保育をしていきたいです。
- ③子どもが安心して楽しく暮らせる町づくりをしてもらい、さらに、子どもたちが安全に遊べるように固定遊具などを新しくしたり、修理を進めていただきたいです。
- ④友人へ どんな時も側で支えてくれてありがとう！これからも素敵な思い出を作りましょう！



おぎもと ゆきの  
荻本 雪乃 さん

- ①ここまで私が出会ってきて、縁というつながりができた方々に対し、感謝を述べたいです。今の私が成人を無事迎えることができたのは、様々な人との出会いを重ねたからだと思っています。本当にありがとうございました。
- ②まだ具体性はなく不透明ではありますが、演劇を用いた職業に就きたいと考えています。演劇を学校や劇団で学び、ただの娯楽だけではなく、日常の中でも実用性があることを知りました。百花斉放になるよう頑張ります。
- ③平取の美しい自然を保全してほしいと考えています。都会にはない緑豊かなこの町がずっと穢れないままにいて、必要なことだと思います。
- ④私がここまで健やかに成長することができたのは、家族のおかげだと思っています。優しく見守ってくれた両親、気にかけてくれた祖父母、共に笑った兄さんたち。この家族の一員として育てていただき、ありがとうございます。



みずさわ りょうと  
水澤 亮人 さん

私たちの町議会 **びらとり** 2023.2.10 VOL.114

■発行／平取町議会 ■編集／広報公聴特別委員会

〒055-0192 沙流郡平取町本町28 TEL 01457-2-2227

\*この広報誌は再生紙を使用しています